

史跡めぐり

和田氏居城伝説地(野田町)



↑ 岸和田古城跡

南海岸和田駅の南側約600mのところ、福祉センターから塔原岸和田港線の方へ200mほど入った所に、周囲を水田と湿地で囲まれた小高い丘があります。ここは、南北朝時代に、楠木正成の一族和田高家が築いたもとの岸和田城の跡と伝えられています。岸和田城は後に現在地に移されたとも言われていますが、確かなことはわかっていません。

ただ、付近には「城下池」「古城」「土居ノ下」などこの付近に城があったことを示す地名が残されていますし、江戸時代の記録では、百姓町(現、宮本町)の東方の池之尻・小寺(現、上町)に1町(約109m)四方形程度の城跡が認められたとありますので、この付近に古い城跡があったことは確かなようです。もっとも、南北朝時代には岸和田氏という武士の一族が岸和田に存在したことが確実ですので、岸和田氏の居館であった可能性もあります。大正10年に大阪府によっ

て「和田氏居城伝説地」と記した標柱が立てられています。

郷土資料館の資料から

ガントウ

薄い鉄板で、釣鐘形に覆った容器の中に、自由に回転する2本の輪が取り付けられ、この輪にロウソクを立てて前方を照らす、昔の懐中電灯です。輪が動いて常にロウソクは直立し、風で火が消えることもなく、また、放っておいても火災の心配のない優れモノです。

時代劇などで、夜中に泥棒を追いかける同心や岡引がこれを使っている場面を見たことがある方も多いでしょう。しかし、ガントウの名前の由来は、強盗(がんとウ)提灯を略したものですが、もとは「強盗を捕らえるための道具」ではなく、「強盗が使う」道具という意味だったそうです。



↑ ガントウ

◆[from M]編集部 スタッフの横顔 part.2◆

前回に引き続き、[from M] 編集部のスタッフの自己紹介をさせていただきます。
今回と次回は、自然資料館のスタッフの自己紹介になります。

☆☆西中美穂（きしわだ自然資料館）☆☆

自然資料館開館以来、学芸員（別名雑芸員）として勤務しています。自然資料館スタッフのなかでは1・2を争う若さなのですが、職場内では古株です。専門は鳥類（ため池の鳥類の動向）ですが、学芸スタッフが少ないので、両生爬虫類とほ乳類も担当しています。また、自然観察会や特別展などの普及活動の企画と実施、書籍の執筆、岸和田周辺の自然に関する調査研究、収蔵資料の保管と整理、資料収集と標本作成なども行っています。学芸員は訳もなく暇な職業と思われていますが、実はけっこう忙しいです。くわしくは、きしわだ自然資料館のホームページ内「学芸員の部屋・岸和田堺町鳥屋敷」中の日記をご覧ください（<http://www.sensyu.ne.jp/k-nature/index.html>）。

岸和田の自然を数年調査してきて思うのは、やはり自然環境の悪化と、それについて付近住民が鈍感であるということでしょうか。確かに、大阪府内のなかで岸和田は自然に恵まれた地域といえますが、丘陵地のため池や雑木林など「里山」とよばれる環境の悪化は、バブル景気の時以上に急激です。しかし、それは意識されず、岸和田は自然が豊かだという意識が、なぜか市民や役所のなかに根付いてしまっています。自然は和泉葛城山のブナ林や、牛滝など珍しいものだけではありません。岸和田は山から海まで多様な自然をもつ地域なのですが、その多様性や緑の連続性が失われることが、生物にどういった影響を与えるかを、いちど授業などでとりあげてもらえれば幸いです。

★★★★ ありがとうございます！ ☆☆☆☆

今回は、とってもうれしい反響がありました。前回（第3号）の「『カモかんさつ』のすすめ」をごらんになった八木南小学校の中西恵子先生が、当館の双眼鏡をお使いになり、生活科の授業で鳥の観察を行いました。児童の反響もよかったとのこと。右の絵は、児童のスケッチです。アオサギの特徴がよく捉えられていますね。

これからも、[from M]を大いにご活用ください。質問、感想などはお気軽にきしわだ自然資料館（tel:0724-23-8100）までどうぞ！



身のまわりのチョウを覚えよう

街中には昆虫が少ない印象がありますが、よくみると、そこにもさまざまな昆虫たちが生息しています。とくに、チョウの仲間には大型のものが多く、色も目立ちやすいため、不慣れな人でも比較的簡単に見つけることができるでしょう。チョウの仲間は植物と関係が深いので、自然環境の評価に有効だといわれています。なにかと嫌われがちな昆虫に親しむ第1歩として、身近な環境にすむチョウを覚えてみてはいかがでしょうか。

大阪府内で過去に記録されたチョウはだいたい100種ですが、当然これを全部見分ける必要はありません。地域によりますが、大阪の街中でも見られる「普通種」は15～20種程度です。下に代表的な種名をあげておきますので、まずはこれらがきちんと同定（種類

を判別すること）できるようになりましょう。

飛翔中のチョウと本にのっている写真とではかなり印象が異なります。図鑑を片手に、とにかく校庭や公園を歩いてみるのが名前を覚える第1のやり方です。そのとき、虫取り網も持っていったらどんどん捕まえてみましょう。網の中でじっくり調べれば、すぐに種類がわかるようになります。チョウが飛んだ状態で同定できるのが理想ですが、つかまえてみないとわかりにくいものもいるので、最初から無理をする必要はありません。何人かグループで行動し、つかまえる人と飛んでいる状態を観察する人を分けるようにすれば、上達は早いでしょう。観察するときは、色や模様だけでなく、翅（はね）の動かし方や飛ぶ速度などにも気を配ってみてください。いずれも飛んでいる状態で同定するときの重要な手がかりになります。



ナミアゲハ↑

普通種を同定できるようになったら、少し山の方にも足を向けてみましょう。そこには、街中で見られるのとは違う種類のチョウたちがたくさん見られます。さらに山へ行けば、また別の種類が現れるでしょう。こうして少しずつ手を広げていけば、何年か後には泉州地方で見られるチョウのほとんどが同定できるようになるかもしれません。

そして、チョウの名前がわかるようになったら、一つの場所で何種見られたかも記録するようにしてください。これだけでも、簡単なチョウ類調査としてまとめることができますでしょう。ただし、こうして目的を持って調査を行うときは、気象条件や調査時間帯にも注意を払う必要があります。一般にチョウは日が照って体が温まっているときによく飛びます。そのため、調査は晴れた日の昼間に行うのが良く、雨や曇りの日は不向きです。また、あまり風の強い日も良くありません。時間帯については、だいたい調査を午前10時ごろから午後2時ごろにかけて行えば、ほとんどのチョウを観察することができるでしょう。最初はとにかく外に出て調べてみるというのでかまいませんが、慣れてきたらこうした条件にも気を配るようにしてください。

しっかりした調査を同じ場所で何回も行えば、1年を通したチョウの動向が把握できるようになります。かなりの同定力が必要な上、気をつけるべき点がさらに多くなりますが、きちんとしたデータなら、調査した地域の環境評価に用いることができ、他の人にも大変役に立つことでしょう。身近なチョウ調べに自信がついたら、ぜひこうした定量的な調査にも挑戦してみてください。詳細な調査方法やデータのまとめ方については、いずれこの冊子に書くようにしたいと思います。調査のレベルを問わず、方法などに不明な点がありましたら、自然資料館までお問い合わせください。また同定の助けとなるシートも用意していますので、ぜひご利用ください。

*大阪の街中で普通に見られるチョウと幼虫の主な寄主植物

ナミアゲハ（ミカン類、カラタチ）、アオスジアゲハ（クスノキ）、キチョウ（マメ科植物）、モンキチョウ（シロツメクサ）、モンシロチョウ（キャベツ、イヌガラシ）、スズグロシロチョウ（野生のアブラナ科植物）、ベニシジミ（ギシギシ、スイバ）、ウラナミシジミ（マメ科植物）、ヤマトシジミ（カタバミ）、ツバメシジミ（マメ科植物）、ツマグロヒョウモン（スミレ類）、カタテハ（カナムグラ）、ゴマダラチョウ（エノキ）、ヒメウラナミジャノメ（イネ科植物）、ヒメジャノメ（イネ科植物）、イチモンジセセリ（イネ科植物）

平田慎一郎（自然資料館アドバイザー）

○● INFORMATION ●○

郷土資料館 春季特別展

佐々木勇蔵コレクション

短冊優品展Iー中世から江戸初期ー

会期 3月24日(土)～5月6日(日)

会場 岸和田城天守閣1階展示室

時間 10時～17時(入館は16時まで)

入場料 大人400円 小中学生200円

故佐々木勇蔵氏が戦前以来収集された短冊コレクションは、中世から現代までの天皇・公家・武士・僧侶・詩歌人・芸術家・小説家・学者・芸能人などあらゆる階層の人々の手になり、また、短冊に表されるあらゆる内容のものが含まれ、総数約25000点におよぶ国内有数のコレクションです。郷土資料館では今後随時短冊優品展を開催してゆく予定ですが、第1回の今回は、最も古い時期ー鎌倉末期から江戸初期(寛永期ころ)までの短冊約250点を展示します。

●主な短冊筆者●

後宇多天皇・足利義政・一条兼良・武田信玄・豊臣秀吉・徳川家康・松花堂昭乗ほか

きしわだ自然資料館

きしわだ親しむ博物館づくり事業

「はじめてのはくぶつかんあそびセット」

おひろめコーナー開設

きしわだ親しむ博物館づくり実行委員会は、新しい展示のおひろめをいたします。今回公開するセットのほとんどは、団体向けへの貸出が可能です。おこしになって、あそんで、おもしろいと思われたらぜひご利用ください。

カマキリになってみようセット

化石のレプリカづくり

化石・鉱物にさわってみよう

などなど・・・。

日時：3月22日～4月7日

＊4月8日以降はこれらの展示は、2

階常設展(有料)に移動します

10:00～17:00(入館は16:00)

月曜日・月末休み

場所：きしわだ自然資料館

1階多目的ホール

料金：無料(2階・3階は有料)

お問い合わせ：きしわだ自然資料館(堺町6-5・電話0724-23-8100)

※お願い

[from M]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ございませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、投稿文の方も受け付けております。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、下記のところまでお送りください。電子メールでも受け付けております。なお【from M】はホームページ上でもご覧になることができます。ぜひご利用ください。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町6-5

きしわだ自然資料館

TEL (0724)23-8100 FAX (0724)23-8101

Email: knature2@sensyu.ne.jp

k-nature@sensyu.ne.jp

自然資料館ホームページURL:

[http://www.sensyu.ne.jp/k-nature/](http://www.sensyu.ne.jp/k-nature/index.html)

index.html (Yahoo Japanの検索で「きしわだ」と入力すれば、カンタンです)